

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2016-13785

(P2016-13785A)

(43) 公開日 平成28年1月28日(2016.1.28)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B60R 22/26 (2006.01)	B60R 22/26	3B087
B60R 21/207 (2006.01)	B60R 21/207	3D018
B60N 2/42 (2006.01)	B60N 2/42	3D054
B60N 2/68 (2006.01)	B60N 2/68	

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2014-137205 (P2014-137205)	(71) 出願人	000003137
(22) 出願日	平成26年7月2日 (2014.7.2)		マツダ株式会社
		(74) 代理人	110001427
			特許業務法人前田特許事務所
		(72) 発明者	永安 正憲
			広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内
		(72) 発明者	柴原 多衛
			広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内
		(72) 発明者	鈴木 崇
			広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内
		Fターム(参考)	3B087 CD05 DB02

最終頁に続く

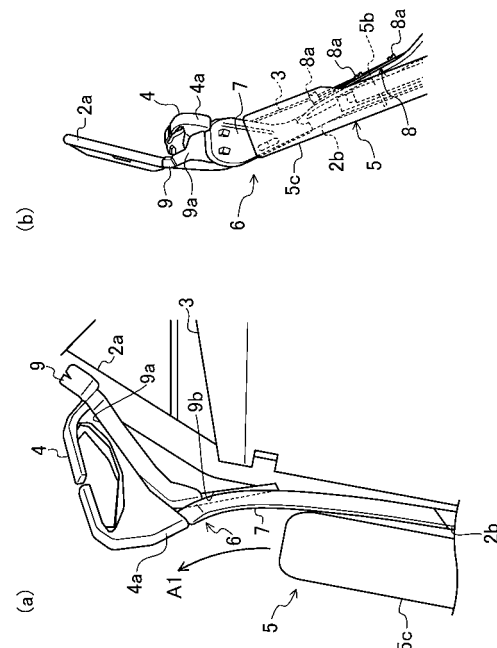
(54) 【発明の名称】 車両用シート構造

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】ベルトガイド及びサイドエアバッグ装置を備えた車両用シートに関して、ベルトガイドと膨張するサイドエアバッグとの間の干渉を防止することができるような車両用シート構造を提供する。

【解決手段】ベルトガイド4とサイドエアバッグ装置5との間に、シートフレーム2の車幅方向外側部に取り付けられた膨張ガイド部材6を配設する。そして、この膨張ガイド部材6に、膨張するサイドエアバッグと摺接することによって、このサイドエアバッグをベルトガイド4よりも外方に向けて案内するガイド面7を設けた。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

シートフレームと、

前記シートフレームにおける車幅方向外側部において、着座者の肩部付近に設けられた、シートベルト装置に関連するベルト関連部材と、

前記ベルト関連部材よりも下方位置で、前記シートフレームに取り付けられ、少なくとも上方に向けて膨張するサイドエアバッグを含んで構成されたサイドエアバッグ装置とを備えた車両用シート構造であって、

前記ベルト関連部材と前記サイドエアバッグ装置との間には、前記シートフレームの外側部に取り付けられた膨張ガイド部材が配設され、

前記膨張ガイド部材は、膨張するサイドエアバッグと摺接することによって、該サイドエアバッグを前記ベルト関連部材よりも車幅方向外方に向けて案内するガイド面を有していることを特徴とする車両用シート構造。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の車両用シート構造において、

前記ガイド面は、下方から上端部に向かうにつれて、車幅方向内側から外方に向かうように延びることを特徴とする車両用シート構造。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

ここに開示する技術は、サイドエアバッグ装置を備えた車両用シート構造に関する。

【背景技術】**【0002】**

特許文献 1 には、サイドエアバッグ装置において、その展開方向を規制するガイド面を備えたものが記載されている。このサイドエアバッグ装置では、サイドドアのドアパネルに、エアバッグモジュールが取り付けられていると共に、上方に向かって膨張するサイドエアバッグの展開を案内するように、上方が車室内側に向けて張り出す傾斜面を備えた展開案内部材が、ドアパネルに設けられている。車両が衝突したとき、膨張して上方へ展開するサイドエアバッグは、その上部に取り付けられた展開案内部材の傾斜面に案内されることで、車室内側に向けて展開する。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開平 5 - 139238 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

ところで、車両用シートの側部上側、より具体的には、シートに着座した着座者の肩付近に相当する、シートバックにおける車幅方向外側部の上端部付近に、着座者の肩部から腰部にわたって斜めに延びるシートベルトを通すためのベルトガイドを設けることがある。こうしたベルトガイドを用いることにより、所定のシートベルト装置から繰り出されたシートベルトの位置決めを安定させることができる。

【0005】

前記のようなベルトガイドを有する車両用シートに、サイドエアバッグ装置を組み合わせようとした場合、そうしたサイドエアバッグ装置を、シートバックに内蔵されたシートフレームの外側部において、ベルトガイドよりも下側に配置することが考えられる。その場合、ベルトガイドとサイドエアバッグ装置は、シートにおける外側部において、ベルトガイドが上側でかつ、サイドエアバッグ装置が下側となるように、上下方向に並んで配置される。そのため、サイドエアバッグ装置が作動して、サイドエアバッグが上方に向かって膨張したときに、サイドエアバッグは完全に展開するものの、サイドエアバッグが、そ

10

20

30

40

50

の展開中に、ベルトガイドや、そのベルトガイドに通したシートベルトと干渉する虞があり、改良の余地がある。

【0006】

なお、シートの側部上側には、前述したベルトガイドの他にも、シートベルト装置のリトラクタ等のシートベルトに関連するベルト関連部材が配設される場合があり、そのようなベルト関連部材が配設されたシートと、サイドエアバッグ装置とを組み合わせる場合も、前述したような、サイドエアバッグとベルト関連部材とが干渉する虞がある。

【0007】

ここに開示する技術は、かかる点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、ベルト関連部材及びサイドエアバッグ装置を備えた車両用シート構造において、膨張するサイドエアバッグとベルト関連部材との干渉を防止することにある。

10

【課題を解決するための手段】

【0008】

ここに開示する技術は、シートフレームと、前記シートフレームにおける車幅方向外側部において、着座者の肩部付近に設けられた、シートベルト装置に関連するベルト関連部材と、前記ベルト関連部材よりも下方位置で、前記シートフレームに取り付けられ、少なくとも上方に向けて膨張するサイドエアバッグを含んで構成されたサイドエアバッグ装置とを備えた車両用シート構造に係る。

【0009】

前記ベルト関連部材と前記サイドエアバッグ装置との間には、前記シートフレームの外側部に取り付けられた膨張ガイド部材が配設されている。

20

【0010】

そして、前記膨張ガイド部材は、膨張するサイドエアバッグと摺接することによって、該サイドエアバッグを前記ベルト関連部材よりも車幅方向外方に向けて案内するガイド面を有している。

【0011】

この構成によると、シートフレームの、相対的に下方に取り付けられたサイドエアバッグ装置が作動をして、上方に向けて膨張していくサイドエアバッグは、シートフレームの外側部の、相対的に上方に取り付けられたガイド部材のガイド面に摺接する。サイドエアバッグは、このガイド面に沿って摺動するが、ガイド面は、展開中のサイドエアバッグを、ベルト関連部材よりも車幅方向外方に案内することにより、サイドエアバッグと、ベルト関連部材との間の干渉を防止することができる。

30

【0012】

ここでいうベルト関連部材は、シートベルトの引き出し方向を、着座者の肩付近で案内するベルトガイドを含み、シートベルト装置がシートに内蔵されている場合は、リトラクタ等も、ここでいうベルト関連部材に含まれ得る。

【0013】

前記ガイド面は、下方から上端部に向かうにつれて、車幅方向内側から外方に向かうように延びる、としてもよい。

【0014】

40

このように構成することで、サイドエアバッグは、上方に向けて膨張したとき、このガイド面に沿って摺動することで、車幅方向外方に向かうように案内されることになる。このようにして、下方から上端部に向かって連続的に延びるガイド面が、サイドエアバッグを車幅方向の内側から外方に向かって連続的に案内することによって、サイドエアバッグの上方に位置するベルト関連部材との干渉を、より確実に防止し得る。

【発明の効果】

【0015】

以上説明したように、前記の車両用シート構造によると、ベルト関連部材とサイドエアバッグ装置との間に配設されたガイド部材によって、上方に向けて膨張するサイドエアバッグは、サイドエアバッグ装置の上方に設けられたベルト関連部材よりも車幅方向外方に

50

案内されるから、ベルト関連部材との干渉を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】(a)は、サイドエアバッグ装置が内蔵された車両用シート全体の概略構成を、外から見て示す正面図である。(b)は、この車両用シートの内部構成を概略的に示す図1(a)対応図である。

【図2】車両用シートに内蔵されたサイドエアバッグ装置の構成を外から見て示す斜視図である。

【図3】(a)は膨張ガイド部材周りの構造を概略的に示す正面図であり、(b)は、それを横から見て示す側面図である。

【図4】サイドエアバッグ装置が作動して展開した状態を概略的に示す側面図である。

【発明を実施するための形態】

【0017】

以下、車両用シートの実施形態を図面に基づいて説明する。なお、以下の好ましい実施形態の説明は、単なる例示である。

【0018】

車両用シートSは、乗員(着座者)が着座するために、車両の床面に設置されている。図1等にも示す車両用シートSは、車室内の右側に設置されるシートであり、図1の紙面左側が車幅方向の外側に、紙面右側が車幅方向の内側に対応する。以下の説明では、この右側に設置されるシートを例にして、車両用シートの実施形態を説明するが、ここに開示する車両用シートの構成は、車室内に設置される各シートに適用可能である。

【0019】

この車両用シート(以下、単に“シート”とも記載)Sは、図1(a)にも示すように、例えば合成樹脂から構成された表皮1によって全体が覆われていて、その内部には、図1(b)にも示すように、シート全体の骨格としてのシートフレーム2と、シートフレーム2の内側に張られていて、着座者の背面を支持する網状のネットシート3とを備えている。また、図示しないが、車両用シートSの内部にはさらに、クッション性能を有する材料(例えば、合成樹脂から成る緩衝材)から形成され、着座者の腰部から肩部にかけての領域を側面側から支持するよう構成された、左右一対のサイドパッドが収容されている。

【0020】

シートフレーム2は、パイプ状の鋼材より構成されたフレーム本体2aと、略矩形板状の鋼材より形成され、フレーム本体2aの外側部に対し、下側から中央部にかけて延びるよう固定された、左右一対のサイドフレーム2b、2bとを備えている。

【0021】

このシートは、シートバックとヘッドレストとが一体的に構成されており、フレーム本体2aは、図1(b)にも示すように、ヘッドレスト部分の上部から車幅方向の両側それぞれに至り、そこから、シートバックにおける車幅方向の両側それぞれにかけて連続している。フレーム本体2aにおいて、ヘッドレスト部分の車幅方向両側は、上から下に向かうに従い車幅方向に広がるように構成されている。フレーム本体2aにおいて、シートバック部分の車幅方向両側もまた、その上側部分が、上から下に向かうに従い車幅方向に広がるように構成されている。そうして、フレーム本体2aにおいて、ヘッドレスト部分とシートバック部分との境界に相当する箇所は、着座者の肩付近に相当するが、ヘッドレスト部分とシートバック部分とを互いに連結するように傾斜している。

【0022】

サイドフレーム2b、2bの前縁部には、ネットシート3の車幅方向両側縁部を係止する留め具8、8が溶接されている。この留め具8、8は、サイドフレーム2b、2bに沿うように、上下方向に延びて形成されており、ネットシート3に係止される係止爪8a、8a、8aが等間隔で並ぶように、一体に形成されている。このようにしてサイドフレーム2b、2bに係止されたネットシート3は、着座者の背部を支持する支持面を成している。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 3 】

また、シートフレーム 2 を、車幅方向に沿って左右に 2 分すると、車両の外方側（車幅方向外側）に位置する一方（この実施形態では、車室内の側壁部（図示せず）に面する一方）には、図 1（b）及び図 2 に示すように、上側から下側にかけて、ベルトガイド 4 と、ベルトガイド 4 を固定するためのブラケット 9 と、膨張ガイド部材 6 と、サイドエアバッグ装置 5 とが取り付けられている。

【 0 0 2 4 】

以下では、車両外方側における、シートフレーム 2、及びその周辺に設けられた部材の構成について説明する。

【 0 0 2 5 】

具体的に、フレーム本体 2 a の外側部の上側、より正確には、前述したように、ヘッドレスト部分とシートバック部分との境界に相当しかつ、傾斜している箇所、ブラケット 9 が取り付けられている。ブラケット 9 は、例えば、曲成された鋼板より構成されていて、図 3（a）に示すように、その上下の端部とフレーム本体 2 a とが溶接により固定されている。ブラケット 9 の上端部は、フレーム本体 2 a における、ヘッドレスト部分とシートバック部分との境界に相当する傾斜箇所の上部に接合され、ブラケット 9 の下端部は、フレーム本体 2 a における傾斜箇所よりも下側の、シートバック部分の上端部に接合されている。このブラケット 9 は、フレーム本体 2 a に固定された状態では、正面から見て、略“く”の字状の外形を有し、上側の端部から外方に向けて延びる第 1 傾斜部 9 a（“く”の字の上側の一辺に対応）と、第 1 傾斜部 9 a から連続して、下側の端部まで下方に延びる第 2 傾斜部 9 b（“く”の字の下側の一辺に対応）とを有している。ブラケット 9 の第 1 傾斜部 9 a の傾斜は、フレーム本体 2 a の傾斜箇所の傾斜よりも緩やかである一方で、第 2 傾斜部 9 b の傾斜は、フレーム本体 2 a の傾斜箇所の傾斜よりも急峻であり、これにより、ブラケット 9 とフレーム本体 2 a との間には隙間が設けられる。

【 0 0 2 6 】

図 3（a）に示すように、ブラケット 9 の第 1 傾斜部 9 a には、ベルトガイド 4 が取り付けられている。ここで、図 2 及び図 3（b）に示すように、ブラケット 9 の第 1 傾斜部 9 a において、フレーム本体 2 a との溶接箇所を除く部位は、車両の前後方向に比較的幅広となるように構成されており、ベルトガイド 4 は、前後方向に幅広の第 1 傾斜部 9 a において、車両の前側に相当する縁部に沿うように、取り付けられている。ベルトガイド 4 は、例えば、合成樹脂より形成されていて、シートベルト B が挿通される案内孔を有すると共に、その上部に、シートベルト B が案内孔に挿通できるように、シートベルト B が通過可能な切れ目が設けられることで、略上向き C 字状の断面を有している。図 1（a）に示すように、ベルトガイド 4 は、表皮 1 の外部に露出していて、シート S におけるヘッドレスト部分とシートバック部分との境界付近で、車幅方向の外側が下でかつ、車幅方向の内側が上となるように斜めに傾いて配設されていると共に、案内孔の孔軸は、車両の後方から前方に向かって、斜め下向きとなるように配設されている。この案内孔には、着座者がシートベルト B を装着するとき、車室内に設置されたシートベルト装置（図示せず）から繰り出され、着座者の正面を支持するように延びる（着座者の肩部から腰部に沿って斜めに延びる）シートベルト B が挿し通される。ベルトガイド 4 は、シートベルト B の引き出しを案内する。

【 0 0 2 7 】

サイドエアバッグ装置 5 は、折りたたまれた形態にあるサイドエアバッグ 5 a と、インフレーター 5 b と、サイドエアバッグ 5 a 及びインフレーター 5 b の全体を覆うカバー 5 c とを備えている。

【 0 0 2 8 】

具体的に、サイドエアバッグ 5 a は、袋状に形成されていて、シート S の内部にて、略上下方向に沿って延びる略柱状に折りたたまれた状態で、サイドフレーム 2 b に取り付けられている。このサイドエアバッグ 5 a は、図 4 に示すように、前方乃至上方に向かって膨張することで、略 C 字状（略三日月状）の形態に展開することができるよう構成され

10

20

30

40

50

ていて、展開したときには、車室の側壁側から着座者の頭部、及び胸部乃至腹部を保護する。

【 0 0 2 9 】

インフレータ 5 b は、上下方向に沿って延びるパイプ状に形成されていて、サイドフレーム 2 b に取り付けられている。このインフレータ 5 b に設けられたガス供給口（図示せず）と、サイドエアバッグ 5 a の内部とは連通しており、衝突を検知したときに作動して、サイドエアバッグ 5 a の内部にガスを送る。

【 0 0 3 0 】

カバー 5 c は、例えば、布製の部材であって、この実施形態では、サイドエアバッグ 5 a 及びインフレータ 5 b の全体を被覆した上で、図示しない接着テープによって留められている。このテープの接着力は、サイドエアバッグ 5 a の膨張に伴って、速やかに剥がれることができるように調整されている。

【 0 0 3 1 】

サイドエアバッグ装置 5 は、非作動時には、上下に沿って延びる略柱状の外形を有している。そして、サイドエアバッグ装置 5 の上側部分は、図 1 (b) 及び図 3 (a) に示すように、車幅方向内側に向けて傾斜しており、以下で説明する膨張ガイド部材 6 のガイド面 7 に接触するまで延びている。

【 0 0 3 2 】

フレーム本体 2 a の外側部にはさらに、膨張ガイド部材 6 が取り付けられている。この膨張ガイド部材 6 は、図 3 (a) 及び (b) に示すように、略上下方向に沿って延びる板状の部材であって、サイドフレーム 2 b とベルトガイド 4 との間に位置するように取り付けられている。膨張ガイド部材 6 の上部は、ブラケット 9 の第 2 傾斜部 9 b によって、裏面側から支持されている。

【 0 0 3 3 】

膨張ガイド部材 6 には、外方（車室の側壁部）に向けて面するように延びるガイド面 7 が設けられている。図 3 (a) に示すように、このガイド面 7 は、下方から上端部に向かって連続して延びており、その上端部は、この実施形態では、図 3 (b) に示すように、シート S を正面から見たときには、ベルトガイド 4 の側面部 4 a につながっている。

【 0 0 3 4 】

具体的に、ガイド面 7 は、フレーム本体 2 a におけるシートバック部分の上端部から、シートバック部分とヘッドレスト部分との境界に相当する傾斜箇所付近にまで連続しており、ガイド面 7 の下側部分は、フレーム本体 2 a におけるシートバック部分の上端部に、ほぼ沿うように配設されている。一方、ガイド面 7 の上側部分は、図 3 (a) の矢印 A 1 に示すように、上端部に近づくにつれて、フレーム本体 2 a における傾斜箇所付近から車幅方向の外方に離れるように、上下に沿って緩やかな弧を描くようにカーブしている（つまり、シート S の略内方に向けて弓なりに湾曲している）。

【 0 0 3 5 】

また、ガイド面 7 の上側部分と下側部分との間の境界部周辺の領域には、前記したようにサイドエアバッグ装置 5 が接触している。

【 0 0 3 6 】

また、図 3 (a) に示すように、ガイド面 7 の上端部とベルトガイド 4 の側面部 4 a とは実質的に段差無く、連続するように構成されている。ベルトガイド 4 の側面部 4 a は、ガイド面 7 の上端部を延長するように、下から上に向かって車幅方向の外方に傾いている。

一方で、ガイド面 7 の下端部は、サイドフレーム 2 b の側面部と連続するように構成されている。つまり、ガイド面 7 は、サイドフレーム 2 b の側面部とベルトガイド 4 の側面部 4 a との間を掛け渡すように延びる曲面として構成されている。

【 0 0 3 7 】

また、ガイド面 7 は、図 3 (b) に示すように、シート S を横から見たときには、下端部から上端部に向かうにつれて、略一定の大きさの幅を保持するように延びた後、略扇状

10

20

30

40

50

に広がっており、当該箇所は、ブラケット 9 の第 1 傾斜部 9 a における車両前後方向の幅に対応している。この実施形態では、ガイド面 7 は、その上端部周辺では、ベルトガイド 4 の側面部 4 a よりも幅が広くなるように形成されている。

【 0 0 3 8 】

以下では、前記のような構造を有するシート S を設置した車両における、サイドエアバッグ装置 5 の作動について説明する。

【 0 0 3 9 】

衝突を検知すれば、インフレーター 5 b は、サイドエアバッグ 5 a の内部に向けてガスを供給する。サイドエアバッグ 5 a は、供給されたガスによって膨張して接着テープを剥がし、カバー 5 c から露出する。カバー 5 c から露出したサイドエアバッグ 5 a は、前方乃至上方に向けて膨張を続け、表皮 1 の縫目を内側から破断して、表皮 1 の外部に露出する。サイドエアバッグ 5 a は、上方に向けて膨張するとき、膨張ガイド部材 6 のガイド面 7 に沿って摺動する。ガイド面 7 の上側部分は、下方から上端部に向かうにつれて、車幅方向の外方に湾曲して延びているから、この領域に沿って摺動しつつ、膨張を続けるサイドエアバッグ 5 a は、ガイド面 7 の延びる方向に沿って、つまり、図 3 (a) の矢印 A 1 が示す方向に沿って、車幅方向内側から外方に向かうように展開していく（案内されていく）。ガイド面 7 の上端部は、ベルトガイド 4 の側面部 4 a と連続するように延びているから、膨張を続けることによって、ガイド面 7 の上端部まで達したサイドエアバッグ 5 a は、今度は、ベルトガイド 4 の側面部 4 a に沿うように摺動することにより、このベルトガイド 4 よりも外方に案内される。

【 0 0 4 0 】

サイドエアバッグ 5 a は、最終的に、図 4 に示すように、着座者の頭部から胸部乃至腹部にかけての部位を、車室の側壁側から覆うように、略 C 字状の形態に展開する。そして、シートベルト B 等と協働して着座者を保護する。

【 0 0 4 1 】

以上より、上方に向けて膨張途中のサイドエアバッグ 5 a は、膨張ガイド部材 6 のガイド面 7 に沿って摺動することにより、ベルトガイド 4 よりも外方に導かれることになる。ベルトガイド 4 は、図 3 (a) に示すように、フレーム本体 2 a において、ヘッドレスト部分とシートバック部分との境界に相当する傾斜箇所において、そのフレーム本体 a に対して隙間を設けるように、車幅方向の外方に張り出して配置されているものの、サイドエアバッグ 5 a がガイド面 7 に沿って摺動することにより、サイドエアバッグ 5 a の展開途中で、サイドエアバッグ 5 a と、ベルトガイド 4、ひいてはこのベルトガイド 4 に挿し通されたシートベルト B との間の干渉を防止することができる。

【 0 0 4 2 】

また、ガイド面 7 を、上下に沿って弧を描く曲面として構成しているから、サイドエアバッグ 5 a は、このガイド面 7 に沿って上方に摺動するとき、下方からガイド面 7 の上端部に向かうにつれて、車幅方向内側から当該方向外方に向けてスムーズに案内される。

【 0 0 4 3 】

また、正面から見たとき、ガイド面 7 の上端部とベルトガイド 4 の側面部 4 a とが連続するように構成されているから、展開中のエアバッグ 5 a は、ガイド面 7 の上縁部に達した後、今度は、ベルトガイド 4 の側面部 4 a に沿って摺動するように案内される。ゆえに、ベルトガイド 4、ひいてはこのベルトガイド 4 に挿し通されたシートベルト B との間の干渉を防止することができる。

【 0 0 4 4 】

一方で、ガイド面 7 の下端部とサイドフレーム 2 b の側面部とが連続するように構成されているから、サイドエアバッグ 5 a が膨張するときに、サイドフレーム 2 b とガイド面 7 との境界縁にて干渉してしまうような事態を防止することができる。

【 0 0 4 5 】

また、サイドエアバッグ装置 5 の上側部分は、ガイド面 7 に接触するまで延びているから、サイドエアバッグ装置 5 が作動するとき、上方に向けて膨張するサイドエアバッグ 5

aを、ガイド面7に沿って摺動させる上で有利になる。

【0046】

また、ガイド面7は、下方から上端部に向かうにつれて、略扇状に幅が広がっていくから、膨張するサイドエアバッグ5aを案内するときに、ガイド面7とサイドエアバッグ5aとが接触する面積を広く取ることができる。ゆえに、広く取った分だけ、サイドエアバッグ5aの外方への案内が安定するようになるから、ベルトガイド4、及びベルトガイド4に挿し通したシートベルトBと、サイドエアバッグ5aとが接触してしまう可能性を低減することができる。

【0047】

また、ガイド面7の下端側の幅を、上端側よりも狭く取ったから、狭く取った分だけ、膨張したサイドエアバッグ5aと、ガイド面7の下端側の領域との間の接触面積が小さくなる。よって、膨張したサイドエアバッグ5aが、ガイド面7及びサイドフレーム2bを車幅方向内側に向けて押し込むような力が低減される。

10

<他の実施形態>

この実施形態では、ガイド面7は、上下に沿って弧を描くような曲面として構成されているが、この構成は必須ではない。例えば、下端部から上端部に向かうにつれて、車幅方向内側から外方に向かうように傾斜した平面より構成することもできる。

【0048】

ガイド面7は、フレーム本体2aの形状と、ベルトガイド4の配置との関係から、下方から上端部に向かうにつれて、車幅方向内側から外方に向かうように延びているが、この構成は、フレーム本体2aの形状や、ベルトガイド4の配置に応じて変更されるものである。例えば、フレーム本体2aにおけるシートバック部分の車幅方向両側が、上から下に向かうに従い車幅方向にほぼ同じ幅となるように構成されており、ベルトガイド4がフレーム本体2aに対して車幅方向の外方に張り出さないで配置されているような構成では、サイドフレーム2bからベルトガイド4の外方まで平坦に延びる平面となるようなガイド面7を構成することができる。

20

【0049】

さらに、ガイド面7の上端部とベルトガイド4の側面部4aとが連続しているが、この構成は必須ではない。例えば、ガイド面7の上端側を、ベルトガイド4の側面部4aよりもさらに外向きに曲成してもよい。

30

【0050】

この実施形態では、着座者の背部を支持するために、網状に形成されたネットシート3を備えたが、この構成は必須ではない。例えば、板状に形成されたクッション材により、着座者の背部を支持するように構成してもよい。

【0051】

この実施形態では、ベルトガイド4として、車室内に設置されたシートベルト装置から繰り出されたシートベルトBを挿し通すものについて説明したが、これ以外にも、例えば、シートベルト装置を内蔵した車両用シートにおいて、当該シートの内部からシートベルトBが繰り出される開口部として構成することもできる。

【0052】

40

また、シートベルト装置を内蔵した車両用シートにおいて、シートバックの車幅方向外側部の上側に、ベルト関連部材としてのリトラクタが配置されている構成では、膨張ガイド部材のガイド面を、そのリトラクタよりも車幅方向外方に向けることで、サイドエアバッグの展開を案内するように構成してもよい。

【0053】

また、ここに開示する車両用シート構造は、ヘッドレストとシートバックとを一体化したシートに適用することに限らず、ヘッドレストとシートバックとを別体にしたシートに適用することも可能である。

【0054】

また、サイドエアバッグ5aの展開形状に関しても、この実施形態で示した形状に限定

50

されるわけではない。少なくとも上方に向けて膨張するよう構成されたものであればよい。

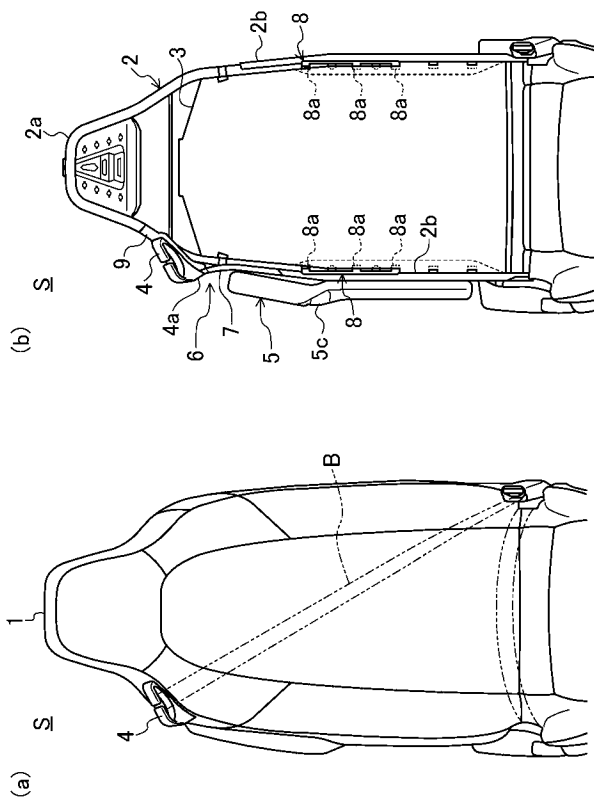
【符号の説明】

【 0 0 5 5 】

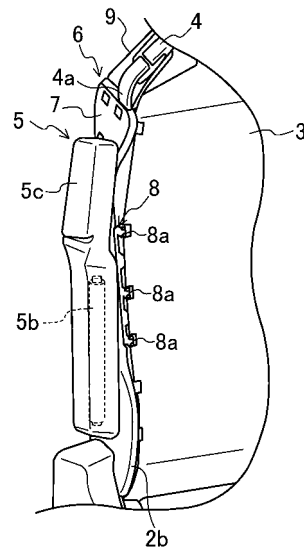
- S 車両用シート
- 2 シートフレーム
- B シートベルト
- 4 ベルトガイド
- 5 サイドエアバッグ装置
- 5 a サイドエアバッグ
- 6 膨張ガイド部材
- 7 ガイド面

10

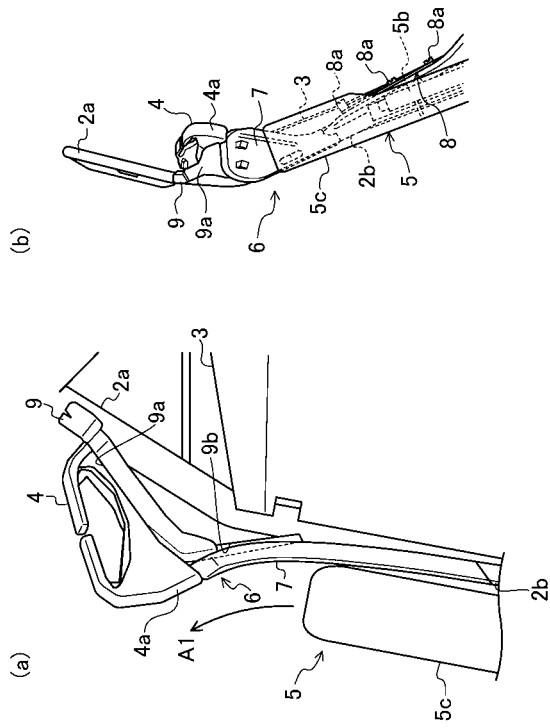
【 図 1 】



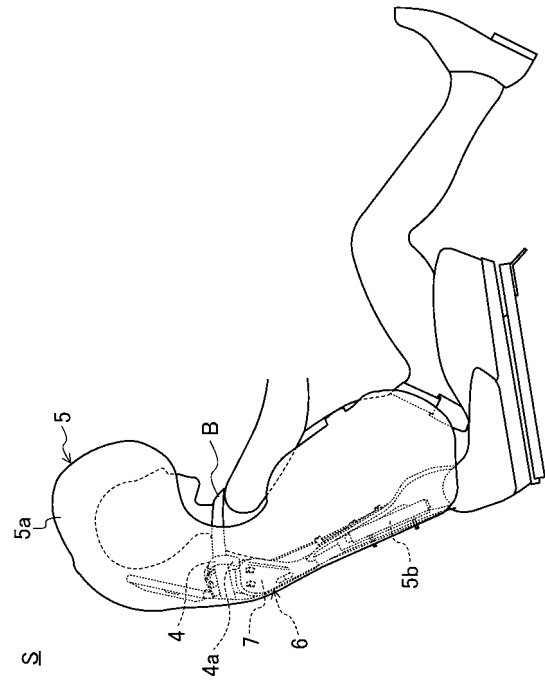
【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】



フロントページの続き

F ターム(参考) 3D018 CA09 CB01

3D054 AA02 AA03 AA07 AA21 DD13 EE20 EE26 FF16